新・町立真室川病院改革プラン
点検・評価報告書

令和２年３月

町立真室川病院

はじめに

平成 29 年３月に策定した「新・町立真室川病院改革プラン」は、「経営の効率化」による数値目標に対する達成評価に加え、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」の項目も新・改革プランに新たに取り入れたことで、地域医療構想における高度急性期・急性期病床が過剰、回復期病床が不足する課題の解決をすべく、最上構想区域内の基幹病院である県立新庄病院をはじめとした医療機関の動向を注視しながら、町立真室川病院の病床数や病床機能の適正化を目指し、役割を明確化していくものである。

ついては、町立真室川病院の自己評価にとどまらず、有識者及び各関係機関職員、町民等で構成される「新・町立真室川病院改革プラン評価委員会」による客観的視点における評価を行い、病院経営の安定化による持続可能な経営を確保するものである。

本年における評価は、平成 30 年度実績及び令和元年度見込みに対する評価について報告するものである。

点検・評価

第１　新・町立真室川病院改革プランに係る各項目に対する評価

１．地域医療構想を踏まえた役割の明確化

新・改革プラン概要・項目 円滑な在宅医療への移行を進めるため、急性期病床から地域包括ケア病床への一部転換、患者の動向を見ながら縮小を含めた病床規模の適正化を検討
病院総括・成果等 平成 30 年度 県立新庄病院においては病床数を現在の 454 床から 325 床に縮小する予定であるが、引き続き他医療機関の動向を注視していく。 また、当院においては 11 月～2 月に満床の日が数回あり、急性期病床として病床利用率が高い状況にあることから、今後の患者数の動向も見ながら、地域包括ケア病床への移行や縮小を含めた病床規模の適正化を検討していく。 令和元年度 近年の入院患者における高齢化や認知症患者の増等の状況から、現在の一般病床の一部を地域包括ケア病床に転換し、急性期病床を残しつつ病床機能報告をもって回復期機能へ移行するものである。尚、病床数については病床利用率が高い状況にあることから削減はしないこととする。尚、転換病床数は要件を満たし、かつ、当院にとって最善の病床数を今後検討する。

評価・助言
これまでも評価委員会で検討してきた「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」に関して、「現在の一般病床の一部を地域包括ケア病床に転換、また病床機能報告をもって急性期から回復期へ移行する。また病床数は削減しない」で進めることとする。尚、転換病床数については今後検討を行い、進捗を報告すること。

２．経営の効率化

（１）人材確保

新・改革プラン概要・項目
医師確保　各関係機関に医師派遣の働きかけを行う 研修医等の積極的な受け入れ
病院総括・成果等
平成 30 年度
平成 30 年度より県立新庄病院より内科医派遣（週１）増 継続して各関係機関への働きかけを行った。 研修医　3 名 平成 31 年度より常勤医師 1 名の招聘に成功
令和元年度
山形県に対し、県立新庄病院の現行派遣時間数の継続依頼 研修医　4 名
評価・助言
医師標準数は若干満たしていない状況であるので、今後も引き続き医師確保対策に全力を挙げること。

（２）収益の増加

新・改革プラン概要・項目
入院基本料 13 対 1 の堅持
病院総括・成果等
平成 30 年度
地域一般入院基本料の堅持（13 対 1 及び重症度看護必要度実績）
令和元年度
継続
評価・助言
継続して取り組み、サービスの維持及び収益の確保に努めること。

新・改革プラン概要・項目
病床利用率の向上
病院総括・成果等
平成 30 年度　病床利用率　84.8％ 令和元年度　病床利用率　79.9％（２月末現在）
評価・助言
効果的な利用を行うこと。

新・改革プラン概要・項目
未収金対策
病院総括・成果等
平成 30 年度 患者未収金 9,859,625 円 ・平成 29 年度の取組みに加え、町民課からの協力のもと、法的措置の対応 ・不納欠損処理（7,179,490 円） 令和元年度 患者未収金 8,959,704 円 （年度末見込み） ・不能欠損処理（28,640 円見込み）
評価・助言
法的対応を適宜行いながら、今後も引き続き取組みの強化を図ること。

新・改革プラン概要・項目
ＣＴ・ＭＲＩ稼働向上
病院総括・成果等
平成 30 年度　使用件数　ＣＴ859 件　ＭＲＩ872 件 令和元年度　使用件数　ＣＴ1,138 件　ＭＲＩ794 件（２月末現在）
評価・助言
今後も引き続き効果的な稼働を行うこと。

新・改革プラン概要・項目
査定減の原因分析
病院総括・成果等
平成 30 年度　継続委託　効果額△2,527,514 円 令和元年度　継続委託　効果額 2,065,357 円（前年比較 2 月末現在）
評価・助言
引き続き原因分析を行うこと。

新・改革プラン概要・項目
新たな施設基準届出
病院総括・成果等
平成 30 年度
令和元年度　　検体検査管理加算（Ⅰ）　　外来迅速検体検査加算
評価・助言
電子カルテに関する加算の届出の準備を行い、収益の確保に努めること。

新・改革プラン概要・項目
スタッフ接遇
病院総括・成果等
平成 30 年度　全職員に対する啓発
令和元年度　継続
評価・助言
継続して取り組むこと。

新・改革プラン概要・項目
情報発信
病院総括・成果等
平成 30 年度　材料収集中
令和元年度　8 月にホームページの開設・公開
評価・助言
人材の確保につながることから評価する。

新・改革プラン概要・項目
適正な検査
病院総括・成果等
平成 30 年度　現状把握
令和元年度　査定分析と併せて確認
評価・助言
分析を行うこと。

（３）経費節減

新・改革プラン概要・項目
電子カルテ導入の検討
病院総括・成果等
平成 30 年度
検討委員会において導入を決定した。現在、仕様書を作成中である。平成 31 年度導入、平成 32 年 4 月 1 日の本稼働に向け、準備を進めている。
令和元年度
項目削除（予定）
評価・助言

新・改革プラン概要・項目
経費、材料費コスト削減
病院総括・成果等
平成 30 年度　「診療材料購入管理研修会」参加
令和元年度　賃借料及び委託料に係るリストによる前年対比
評価・助言
リスト比較による効果を明確にすること。

新・改革プラン概要・項目
ジェネリック医薬品使用推進
病院総括・成果等
平成 30 年度
後発医薬品使用加算１継続　利用率　92.00　％　（H30 平均）
令和元年度
後発医薬品使用加算１継続　利用率　93.23　％　（10 月までの平均）
評価・助言
現在、高い数値であるが、更なる推進を行うこと。

新・改革プラン概要・項目
光熱水費、消耗品費の削減
病院総括・成果等
平成 30 年度
本年においても単独のエアコンに更新したことで電気使用量が増加傾向にある（調査中）
令和元年度
電気使用量に関し、本年は暖冬のため昨年に比べ大きな変動はない。重油使用量は減少

評価・助言
エアコン更新等による影響を今後分析すること。

（４）今後の診療所のあり方

新・改革プラン概要・項目
廃止若しくは統合などの方向性を模索
病院総括・成果等 平成 30 年度　患者数　1,485 人 令和元年度　部分削除（予定）　患者数　1,295 人（2 月末現在）
評価・助言

３．再編・ネットワーク化

（１）二次保健医療圏ネットワーク化

新・改革プラン概要・項目
県立新庄病院を中心に役割分担を明確にし、連携の強化・情報の共有化を図る
病院総括・成果等 平成 30 年度　紹介率　13.6%　　逆紹介率　17.2% 令和元年度
評価・助言 引き続き連携の強化を図ること

（２）もがみネット

新・改革プラン概要・項目
もがみネット活用による医療連携の強化
病院総括・成果等 平成 30 年度　登録件数　2 件 令和元年度　登録件数　10 件
評価・助言 情報の共有・連携強化を図るため積極的に登録を促すこと。

（３）介護保険施設との連携

新・改革プラン概要・項目
地域医療構想を踏まえた介護保険施設等との連携
病院総括・成果等 平成 30 年度　現状把握 令和元年度　現状把握
評価・助言 具体的な連携の状況を提示すること。

４．経営形態の見直し

新・改革プラン概要・項目 現状を継続しつつも、地方公営企業法の全部適用との比較検討 地域医療連携推進法人も視野に入れて方向性を検討
病院総括・成果等 平成 30 年度　調査中 令和元年度　調査中
評価・助言 当院にとってどの方法が最善なのか調査結果を整理すること。

第２数値目標の達成状況及び第３経営効率化進捗状況

平成29年度決算

（単位：%、人）

	元年度計画①	元年度決算見込み②	達成率	達成状況	地方公営企業年鑑
経常収支比率	100.2	100.1	99.9	B	103.7
医業収支比率	75.8	74.9	98.8	B	79.6
職員給与費対医業収益比率	55.2	55.9	98.7	B	69.7
病床利用率	80.0	80.3	100.4	A	69.4
入院患者数	16,108	16,174	100.4	A	18,300
外来患者数	51,625	47,509	92.0	B	33,880
紹介率	11.0		0.0		
逆紹介率	16.5		0.0		

※達成状況（A：目標達成 100%以上　B：一定の実績 95%以上　C：目標未達成 95%未満）

※参照　平成28年度地方公営企業年鑑　50床以上100床未満の黒字病院指標

平成30年度決算見込み

（単位：%、人）

	30年度計画	30年度決算	達成率	達成状況	地方公営企業年鑑
経常収支比率	100.1	101.2	101.1	A	103.7
医業収支比率	77.1	82.4	106.9	A	79.6
職員給与費対医業収益比率	54.8	52.6	103.0	A	69.7
病床利用率	80.2	84.8	105.7	A	69.4
入院患者数	16,092	17,025	105.8	A	18,300
外来患者数	51,728	50,315	97.3	B	33,880
紹介率	11.0	13.6	123.6	A	
逆紹介率	16.2	17.2	106.2	A	

※達成状況（A：目標達成 100%以上　B：一定の実績 95%以上　C：目標未達成 95%未満）

※参照　平成28年度地方公営企業年鑑　50床以上100床未満の黒字病院指標

数値目標に対する評価

区分	達　成　状　況
A	目標達成　１００％以上
B	一定の実績　９５％以上
C	目標未達成　９５％未満

平成 30 年度における数値目標の達成状況概ね評価はＡの「目標達成」だが、外来患者数はＢの「一定の実績」であったので、今後は目標達成に向け、減少の分析を行い新・改革プランに沿った取組みを行うこと。また令和元年度については、まだ見込みではあるので、確定した状況を次回の評価委員会で提示すること。

総合評価

最後にまとめとして、町立真室川病院の病床機能・病床数に関し、これまで評価委員会でも方向性等を検討してきたが、明確な方向性を決定するまでには至っていなかったが、9 月に厚生労働省から「再編・統合が必要な病院」として町立真室川病院が公表されたこともあり、病院内での会議等を経て「地域包括ケア病床に一部転換し、急性期病床を残し回復期へ移行する。なお、病床数は減らさない」という方向性で進めるとしたことは、大きな進展があったと考える。今後の進捗状況については、後ほど報告をお願いする。

医師確保について、医療法で定める医師標準数にはまだ若干達していない状況とのことから、今後も引き続き各関係機関との連携を密にし、最重要課題として全力で取り組む必要があると考える。また、看護師、医療スタッフ等人材の確保にも取り組むこと。

尚、この新・改革プランに関して、病床機能の部分の変更や数値目標に乖離が生じてきていることなどから、全体的な見直しをする必要があると考える。見直し案を後ほど提示すること。

当評価委員会における各委員からの評価等を踏まえ、引き続き、新・改革プランを確実に実行し一定の効果を挙げなければならない。そして、町立真室川病院が安定した病院経営のもと、地域住民に対する充実した医療サービスの提供を期待する。